

平成20年度
発生予察情報

特殊報第1号

平成20年10月30日
埼玉県病害虫防除所
(TEL:048-525-0747)

ウリ類退緑黄化ウイルス（仮称）によるキュウリ退緑黄化病（仮称）の発生について

本病は、新たにキュウリで発生が確認されたウイルス病です。タバココナジラミ類が媒介し、キュウリ黄化えそ病の初期病徴と似ているので注意が必要です。

特殊報：新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発生活消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

- 1 病害虫名 キュウリ退緑黄化病（仮称）
- 2 病原ウイルス ウリ類退緑黄化ウイルス
(Cucurbit chlorotic yellows virus ; CCYV)（仮称）
- 3 発生経過
(1) 平成20年10月、県内の施設栽培キュウリの葉に黄化症状が発生した。
症状から九州で発生しているキュウリ退緑黄化病（仮称）の疑いがあったため、埼玉県農林総合研究センターにおいて遺伝子解析（RT-PCR法）により検定したところ、CCYV（仮称）の感染が確認された。
(2) 本ウイルスによる病害は、本県では初めて確認された。現在までに、大分県、佐賀県、宮崎県、長崎県、熊本県、福岡県及び鹿児島県で特殊報が発表されている。
- 4 病原ウイルスの性質及び伝染
本ウイルスの形態は、ひも状で、クリニウイルス属に属する。
本ウイルスは、タバココナジラミ類（バイオタイプQ及びB）により媒介される。
クリニウイルス属ウイルスは、半永続伝搬（ウイルス媒介能力が数時間から数日間持続）され、経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染はしないことが知られている。
- 5 病徴
発生初期は、キュウリの葉に退緑小斑点を生じ、その後、斑点が拡大、癒合しながら葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化する。葉縁が下側に巻く症状がみられ、黄化による草勢低下及び収量の低下が認められる。ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病の初期病徴に似ている。
- 6 感染植物

現在までに感染が確認された作物は、キュウリ、メロン及びスイカである。

雑草のオランダミミナグサ（ナデシコ科）及びクワクサ（クワ科）にも感染が確認されている。

7 防除対策

- (1) 異常が疑われる苗は、本ぼに定植しない。
- (2) 購入苗の利用に当たっては、タバココナジラミ類と感染株の持ち込みに注意する。
- (3) 施設栽培では、ハウス（特に育苗ハウス）の側窓などの開口部には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを張り、タバココナジラミ類の侵入を防ぐ。また、紫外線カットフィルム、光反射資材等も利用する。なお、目合いの細かい防虫ネットを使用する際には、ハウス内の換気に心がける。
- (4) 施設の出入口、側窓、天窓付近などに黄色粘着資材を設置し、タバココナジラミ類の早期発見と施設への侵入阻止に努める。
- (5) 施設内及び周辺の雑草は媒介昆虫の発生源となるので、防草シートを設置するなど、除草を徹底する。特にハウス周辺のウリ科野菜は伝染源となるので除去する。
- (6) 施設内には、栽培作物以外の植物は持ち込まない。
- (7) 育苗期又は定植時にタバココナジラミ類に登録のある薬剤を処理するなど、生育初期の感染防止に努める。
なお、タバココナジラミバイオタイプQは、一部の薬剤に対する感受性が低いので注意が必要である。
- (8) 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、ビニール袋等に入れて、完全に枯れるまで密閉処理してから処分する。また、摘葉や摘心した作物残さは、野外に放置せず、同様に処分する。
- (9) 収穫終了後は、直ちに地際から切断又は抜根した上で、施設を密閉処理して媒介昆虫を死滅させる。



発病初期の退緑小斑病徴



病徴の進行した黄斑型病徴

表 キュウリのコナジラミ類防除薬剤例

薬 剤 名	系 統	使用時期 (収穫前日数)	使用回数
ボタニガードES*	微生物農薬	発生初期	一
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	ネオニコチノイド	育苗期、定植時	1
ベストガード粒剤	ネオニコチノイド	育苗期、定植時	1
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	1	2
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド	1	3
サンマイトフロアブル	その他	1	2
ハチハチ乳剤	フェンキサンゾルアミド	1	2

*野菜類で登録

(使用基準は平成20年10月30日現在)

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。